

しおんだより VOL.49



昔の上司とご一緒に働けるといふご縁に感謝！

今回は、当院で日々、患者さんの診療に当たられているドクターについて、ご紹介したいと思います。

当院は、その特性上、高齢の方の肺炎の患者さんはどうしても多くなりますが、そのほかにも間質性肺炎や肺気腫、肺がんの術後の方などの呼吸器の疾患の方、さらには、様々な疾患により人工呼吸器管理が必要な方も多くいらっしゃいます。そのような患者さんに、安心・安全な治療を行うような体制を整えることは、当院の果たすべき使命の一つです。

私ももともとは呼吸器外科出身ですが、太田先生は大学院時代の上司でもあります。大学病院ですので、色々とシビアな状態の患者さんも沢山いらっしゃいましたが、私と同期の1名（今や、阪大教授になりました！）が太田先生の指導をうけながら、なんとか毎日を過ごしておりました。今、再びご一緒にできますことのご縁に感謝しております。

様々な呼吸器疾患の方の初療から、術後や慢性期の管理まで、担当していただいておりますので、是非、ご相談いただければと思います。外来診療日は、火曜日と木曜日の2日間（午前・予約不要）。入院、転院のご相談は随時、当院地域連携室にて承っております。

当院呼吸器科部長の太田三徳先生は、大阪はびきの医療センターの院長先生などを歴任された後、4月から当院に赴任されました。

思温病院ハートチームによるハートカンファレンス

当院で呼吸器疾患のほか体制を強化している領域に循環器領域、特に慢性心不全があります。心不全は、近年、患者さんの数が爆発的に増えており、「心不全パンデミック」とも呼ばれる状態になっています。急性期の治療は急性期病院で行われますが、急性期を脱しても、その後、投薬治療管理やリハビリテーションが必要となる方も、多くいらっしゃいます。

ただ、現在の医療システムでは、そのような患者さんが長く急性期病院で療養していただくことができませんので、どうしても、当院のような医療機関に転院された上で、療養やリハビリテーションを継続するという形になります。とはいえ、心不全で一度は入院となった方ですので、慎重な経過観察や万一の場合の医療措置、必要に応じた転院も必要になります。当院ではそのような体制を構築し、治療にあたっています。



ハートカンファレンスは、週に1回、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士などが一堂に会して行われています。

「飛び出し坊や」にも色々あるのですね！

町を歩いていると、時々目にする「飛び出し坊や」。少し調べてみると、我が国で最初にできたのは、1973年、滋賀県東近江市だったそうです。時代背景としては、高度経済成長に伴い、車の交通量が増加し、全国で交通事故が増え続け、子どもの飛び出しによる事故も多発したことがあったそうです。

その状況をなんとかしたいと当地の社会福祉協議会が久田工芸さんという会社に依頼したのがきっかけで作成。その後滋賀県全体に広がるなど設置範囲が広がっていったとのこと。ちなみに、「飛び出し坊や」の名付け親(?)は、漫画家のみうらじゅんさんだとか。

先日、講演会で熊本県の甲佐町というところにおうかがいしたのですが、そこにも飛び出し坊やがありました！私たちがいつも見ている久田工芸さんバージョンではありませんでしたが、手作り感が田舎らしい(?)良い雰囲気醸し出していました。子どもは注意していても、ふとした拍子にぱっと飛び出しそうになりますから、注意したいですね。(文責：狭間研至)



熊本県甲佐町でみかけた飛び出し坊やは、素朴な感じがしました。

しおんだより 第49号 発行日：令和6年11月15日

発行人：狭間研至 発行元：医療法人嘉健会 思温病院

☎557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711 HP: www.shion-hp.or.jp